



桜丘まちづくりニュース

N013 平成 24 年 7 月

—快適に住み続けられるまちづくり—

発行:NPO世田谷桜丘まちづくり

NPO 世田谷桜丘まちづくり 第 8 回定時総会が開催されました

第 8 回の NPO 世田谷桜丘まちづくり定時総会が 5 月 28 日に開かれました。23 年度の活動では古布・古着の回収、桜丘助け合い隊の活動、ウォーキングラリー、参商会との共同事業であるペナントギャラリーや七夕飾り、3 回のコンサートなど活発な催しが行われました。特に世界的なベルリンフィルメンバーによるピアノトリオの演奏とクリスマスコンサートではオペラ「くるみ割り人形」が上演され、いずれも多くのお客に感動と音楽を聴く楽しさを与えてくれました。また、初めての企画として「桜丘歴史写真館」では地域の歴史を示す多くの写真が展示されて、住民の興味を集めました。また古着回収の助成金など収入の中から 46 万円を東北大地震の被災者や被害を受けた学生への育英資金に寄付いたしました。本年度も、ベルリンフィルのメンバーによるコンサートを昨年に続いて計画し、また「桜丘歴史写真館」の内容をさらに充実していくことなどを主な柱に活動を続けていきます。

よろしくご支援いただくようお願い申し上げます。

桜丘の先生から “ひとこと”

世田谷区立桜丘中学校 校長 西郷 孝彦先生



*** 子どもたちの幸せを考える ***

昨年 11 月、国王夫妻が来日しました。まだ新婚の夫妻の爽やかな姿にブータンブームが起こったことはまだ記憶に新しいですね。実はその「幸福度世界一」のブータンに桜丘中の卒業生が住んでいます。在学中は「学校を休んでコンサートに行きたい！」と言って担任を困らせた彼女だそうですが、その後アメリカの大学に留学をし、世界中をひとり旅した後、現在ブータンで音楽の先生をしています。

彼女の話は、また別の機会に譲るとして、先日その彼女からメールをいただきました。そのメールによると、ブータンに住む人の「幸福」とは「足るを知る」と「今日を生きる」という仏教の精神そのものにあるといえます。すなわち、多くを求めすぎず、今ある環境・今ある物で充分という考え方、今この瞬間を楽しく生きるという考え方です。

一方で、「子ども幸福度世界一」の国はオランダです。先日テレビで、尾木直樹さんがオランダの教育について話していました。オランダの学校の特徴を列挙するとまず「規則で縛らない」たとえば、学校にチャイムは無く、子どもたちは自主的に行動することで、自己管理能力がついてくる。ちなみに今年から桜丘中もチャイムがなくなりました。

次に「宿題が無い」ときどき親に頼まれる事はあるが先生が断わる。そもそも何かやるように強制すること事自体がナンセンス。子どもたちに競争をさせればさせるほど学力が落ちる。他人と争う事に意味はない。だからテストも成績も必要ない。さらに「3 学年混合クラス」があり、3 学年が一緒に学ぶ事で、勉強を教え合うことにより学力がのびる。

これが、世界最先端の授業だそうです。日本の教育システム全体を変えることは難しいとしても、桜丘の地域の学校に通っている子どもたちにより「幸福」になってもらうためにはどうしたらよいでしょうか。これは、私の宿題です。

～活動のご報告～

1. 桜満開 笑顔満開【4月8日(日) 桜祭り開催】

毎年、桜丘町会との共催で行われている桜祭りが、まさに桜も満開の4月8日に桜樹広場と笹原小学校東バス停上の千歳通り沿いで行われました。昨年は東日本大震災の影響で中止となりましたが、今年は好天に恵まれて多くの方が会場を訪れ、千歳通り上では、例年の通り甘酒や綿あめがふるまわれて、親子連れで桜を見ながら陽春の一時を楽しむ風景が見られました。桜樹広場では毎年出演している、和響太鼓がにぎやかに雰囲気盛りあげ中、ベーゴマ回しやヨーヨー釣り、フリーマーケットでの買い物など、様々な催しを楽しんでいました。また、桜丘中学の生徒が描いた俳画の展示や、桜丘歴史写真展では昭和の前半から半ばにかけての地域の古い写真が多く飾られて、来訪者の興味を引きました。最高の花見日より恵まれて、多くの方に楽しんでいただいた一日になりました。



2. 今年もいっぱい集まりました【5月13日(日) 古布・古着の回収】

毎年二回、春秋に行われていますが、会場の桜丘小学校南、笹原小学校東門、宇山神社には始まる前からゴミ袋に入れた古着や不要のバッグ・靴などを抱えて、何度も自宅との往復される方や自家用車に満載してお持ち込む方など、いつものとおりトラックに乗り切らないほどの量が集まりました。中にはほとんど使っていない新品同様の品物もあって、これらはNPO 世田谷桜丘まちづくりのリサイクルコーナーでご希望の皆様にご利用 いただいています。古布・古着の回収は回収量に応じて、世田谷区と回収業者から補助金 が支給されます。昨年は東日本大震災の被災地に義援金として送りましたが、今年も有益な使い道を検討するつもりです。



回収量	桜丘小学校南	6,160Kg	
	笹原小学校東	2,870Kg	
	宇山神社	3,030Kg	合計 12,060Kg

3. 6月24日(日) 子供のためのまちづくりチャリティコンサート

桜丘ホールに約60人の聴衆にご来場いただき、第1部は尚美学園大学の合唱団「新・音楽集団 匠」の皆さんによる合唱を、また第2部は音楽劇「奥さまはメイド」のコミカルな舞台をお楽しみいただきました。今回のコンサートの主旨は小中学校の子供さんに親しみやすいプログラムで音楽の楽しさを味わってもらうことにあり、入場料無料で多くの子供さんが聴きにきてくれることを期待しましたが、日曜日の午後で学校の行事とも重なったこともあり、むしろ大人の方の来場者が多く見受けられました。



懐かしい小学校唱歌やアニメのテーマ曲のメドレーを一緒に口ずさみながら、また後半の音楽劇は笑いに包まれてのなごやかな客席の雰囲気が演奏者にも伝わって、素晴らしい迫力のある声に聞き惚れたひとときでした。出演者の方々にはボランティアでご協力頂き誠にありがとうございました。終わってからの出演者の感想では聴衆の温かい拍手と、熱心に聴く態度に大変感激し、いい演奏ができたと喜んでおられました。

「NPO 世田谷桜丘まちづくり」の会員を募集しています。

次の世代を担う子供たちの育成・地域環境整備を目的に、音楽会、まちづくり祭り、古着・古布回収、ペットボトルキャップ回収、ウォーキングラリー、助け合い隊などの活動を通じてより良い街づくりを目指しています。

毎週水曜日にNPO 世田谷桜丘まちづくりのコミュニティサロンでは「駄菓子屋さんを開店しています。大勢の子どもたちが楽しみに集まる時間に合わせて、千歳船橋の駅前や商店街にプラカードを掲げて歩くおじいさんをご覧になった皆様も多いかを思います。今回はNPOまちづくりの会員でもあるその看板おじいさん木村さんにインタビューいたしました。



(質問) 木村さんの略歴について？

【答】生まれて間もない昭和3年に経堂4丁目に移り、以来80数年この地に住んでいます。

第二桜(現桜丘)小学校から(旧制)第1高等学校、東京大学工学部に進み、昭和25年にNHKに入局しました。以後、多くの時間をNHK技研で過ごし、テレビやビデオの技術開発・衛星放送の研究などに携わってきました。昭和60年にNHK放送技術研究所長を最後にNHKを退職、平成2年からは熊本工業大学(現崇城大学)教授を10年間勤めました。

[⇒木村さんはラジオからテレビ、衛星放送へと進む日本の放送技術の確立に多大な貢献をされました。現在も学会や講演会などで活躍を続けられ、数々の賞を受けておられます]

(質問) 小・中学校時代の桜丘の思い出は？ 当時の街の様子や子どもたちの遊び、今の子どもとの違いなどについてお話しください。

【答】桜丘周辺の様子は、今より田んぼや畑が沢山あり、また使われていない空き地、原っぱが多く、子どもたちは走り回っていました。今頃は葦(よし)の茂みに大よし切りが飛来して巣を作り、その空き巣に卵を生みつけるためのカッコーが来て、夕方よく鳴いていました。その葦原の中に小径をつけて、巣を見に行ったりしたものです。小田急線の電車が1時間に2,3本、上下合わせて5,6本通り、それを眺めるのが楽しみでした。

犬を飼っていたほか山羊もいたことがあり、子どもが生まれて、学校の同級生たちが先生と見に来たこともありました。放課後は、主に草原で戦争ごっこをしたりして暗くなるまで遊んでいました。夕方にはあちこちの家からお母さんが子どもを呼ぶ声がきこえました。農家の子供は、放課後遊ばないで、すぐ畑にいる両親のもとに行き、畑仕事を手伝っていた。今から思うと彼等も遊びたかったらうな一と思いました。

年末12月15, 16日にはよくボロ市(上町地区)を見に行きました。

夏休み前の暑い日は学校でそろって(1学年100人ぐらい?)和泉多摩川へ行きました。小田急経堂駅まで歩いて行きました。夏の楽しみの一つは甲虫(カブトムシ)やくわがたの採集、隣の上毛学舎のウラ庭のくぬぎの木に一杯たかっていたいました。

[⇒今の子どもたちに見せてあげたいような、楽しい時代でしたね]

(質問) なぜ駄菓子屋さんのサンドイッチマンを思い立たれたのでしょうか？

【答】かつてはちんどん屋さんがいて、お店の宣伝などに街を練り歩いて人気がありました。

それを思い出して、駄菓子屋さんの宣伝に一役買おうとのつもりで始めました。おまわりさんから尋問を受けたりしたこともありましたが、今は通りかかった人から声をかけられたり、お店はどこにあるの?と質問を受けたりして認めてもらえるようになりました。

[⇒これからもお元気でまちづくりにご協力くださいね]

【NPO 世田谷今後の予定】 10月21日(日) ウォーキングラリー

11月3日(土・祝) 古布・古着の回収

12月23日(日) 桜丘まちづくり音楽祭

12月にはドイツ・イタリアの名手によるコンサートも予定しています。

千歳通りにはかつて川(品川用水)が流れていました 品川用水の思い出

田中 芳徳 記

子どもの頃は変な川だと思っていた。川であれば水が流れていると思う。ところがこの川は水が流れていないのである。何と水溜りばかりである。池のように点々としているのだ。川の両岸は堤防のようになっており、川に入るためには、そこを上がって再び降り川底に至るのである。岸边には所々に喬木が生い、堤防には笹が生い茂っていた。いや川底にも生い茂っていた。お蔭で容易に向こう岸に渡れることが出来た。川底には木の枝が折り重なっていた。灌漑用水とは到底言えぬ有様であった。



(写真提供田中さん)

これが僕たちの知る品川用水である。場所は桜丘中学の南側、水があれば生きものが生息する。モズやウグイスなどが良く鳴いていた。しかし、この川の名物は何と言っても食用ガエルである。ウシガエルともいう。川に入ると必ず食用ガエルのオタマジャクシがいた。それも馬鹿でかいのである。10 cmはあろうか。普通のオタマジャクシのように黒くなく、緑掛かった褐色である。ガマガエルも蛙としては大きい方であるが、食用ガエルに比べれば赤ん坊のようだ。時期ともなると「ウォーン、ウォーン」と鳴き、気味が悪い。

この品川用水も僕たち桜丘中学の生徒にとっては裏庭のような遊び場であった。音楽の時間に先生から「あなたは歌わなくてよいから外に出ていなさい。」と言われた。丁度声変わりによく歌えなかったのである。その同級生は、教室の外に出ることは出たが、どうして良いか分らなかった。ぼやっとしていても面白くないので、勝手知ったる品川用水に入って遊んだ。そこはまたアメリカザリガニの宝庫である。幾らでもとれたし、本人にとっては音楽よりもましであった。ザリガニをバケツに入れて音楽室のそばに戻って来た。事情を知らない他の先生が、「君、ここで何をしているのかね。」と尋ねた。

それからしばらくしてそこにはゴミが捨てられるようになった。こっそり捨てに来たのではなく堂々とであった。それもその筈、東京都が家庭ごみの捨て場としたのである。捨てる音と、ハエの発生で、中学では勉強どころではなかった。その後さらに時間が過ぎてそこは立派な道路になっていた。それが現在の千歳通りである。

品川用水と言えば橋も何本かあった。農大正門前あたりが北見橋、それから千歳船橋の方へ行くにしたがってファミリーマート付近が南橋、郵便局あたりが地獄橋、そして笹原小手前の橋場橋であった。どう言う訳か、北見橋の石の標識柱が今では長島大榎公園のお地藏様の後ろに建っている。興味ある人は確かめて下さい。

執筆者の田中芳徳さんは昭和 10 年生まれ、桜丘中学同窓会の桜友会 最高顧問、かがやく目会長などを務めておられ、桜丘中学 1 期生、旧姓は園田さんです。この原稿の記述内容の年代は、ザリガニ捕りは田中さんの中学 2・3 年生、すなわち昭和 23・24 年頃です。品川用水の埋め立ては昭和 27 年年から 29 年にかけて行われたようです。

NPO 世田谷桜丘まちづくりを支援していただいている賛助会員の皆様(敬称略)

私たちの活動に賛同し日常の活動やイベントなどにご協力頂いています。

- | | | |
|---------------------|-----------|-------------|
| ☆ 世田谷信用金庫船橋支店 | ☆ 水道機工(株) | ☆ (株)ライステック |
| ☆ ミサワホーム東京(株) 世田谷支店 | ☆ 保田医院 | ☆ 伊藤内科胃腸科 |
| ☆ 東京土建組合けやき分会 | ☆ VIC 進学院 | ☆ 美容室ビューロード |